所報むろと

2016　第29号

－平成２７年度　事業報告－

独立行政法人　国立青少年教育振興機構　国立室戸青少年自然の家

－ National MUROTO Youth Outdoor Learning Center －

巻　頭　言

独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立室戸青少年自然の家
所　長　　戸　部　信　幸

平成 27 年度に実施した事業の報告を冊子にまとめました。是非とも御高覧いただき、御意見や御助言を賜りましたら幸甚です。

当施設は、平成 27 年度を持ちまして開所 40 周年を迎えることができました。これまで当施設を様々な形で支えていただいた皆様に、この場を借りまして厚くお礼申し上げます。
当施設は、地域の過疎化・少子化、学校行事の過密化による集団宿泊訓練の減少などで、利用者数が減少、稼働率が低迷し、施設を取り巻く環境は厳しい状況にあります。しかし、地域の財産である室戸ジオパークを舞台とした活動や、近年需要が高まっている「防災」を中心としたプログラムなど、既に人気が定着している海の活動以外にも施設の特色を打ち出していき、利用者の確保、増大に繋げていきたいと考えています。

施設の特色を打ち出す事業として、具体的には、平成 27 年 4 月 29 日にオープンした「室戸世界ジオパークセンター」を拠点としたプログラム展開や、地域の様々な団体・個人と連携して、これまでも好評だった農作物の収穫体験に加え、牧場見学とエサやり、大敷網漁の水揚げ見学、さらには室戸海洋深層水を利用した工場の見学など、室戸ならではの素材を活用し、子供たちに日常生活では体験できない有意義な体験を提供しつつ、当施設の特色を強めていくことを目指しました。

一方、施設の老朽化とともに、動植物や気象など、自然による害も各所で発生していますが、定期的に職員が調査して把握し、対応するようにしています。また、職員の研修を行い、資質の向上を図りました。今後も、利用者を温かく迎え、利用者が安心して快適に利用して、様々な体験を行うことができる施設であり続けるよう努力していきたいと考えています。

これからも、みなさまの一層の御支援・御協力をいただけますようお願いいたします。

目　　次

平成２７年度事業報告
調査研究事業
●ウォーターワイズⅢ ―― １
教育事業
●ボランティア養成講座 ―― ３
●日本列島ともだちの輪 ―― ５
●黒潮チャレンジキャンプ ―― ７
●ジオパーク防災キャンプ ―― １１
●自然ふれあい体験事業 ―― １２
●体験！発見！ジオパーク ―― １３
●親子 de クッキング ―― １５
●親子 de ミュージック ―― １７
●教員免許状更新講習 ―― １８
●室戸お遍路プチウォーク ―― １９
●ふれあい通学合宿 ―― ２０
生活自立支援事業
●むろと元気塾ⅠⅡⅢ ―― ２３
子どもゆめ基金体験の風リレーションシップ事業
●キッズデイ①～④ ―― ２７
●室戸の海まるごと体験 ―― ２８
●むろとでチャレンジ①②③ ―― ２９
●室戸くろしお祭り ―― ３０
●室戸オープン卓球大会（小学生の部） ―― ３０
●おもしろ理科工作　作って！遊んで！考えよう！ ―― ３１
●南四国小学生バドミントン交流大会 ―― ３１
●ファミリーデイ！４０周年記念感謝祭 ―― ３２
●むろと２０００本桜祭り ―― ３２
地域応援事業
●高知県武道室戸大会 ―― ３３
●中・四国６年生軟式野球室戸大会 ―― ３３
●四国交流三四郎のつどい ―― ３３

管理運営報告 ―― ３４

広報活動 ―― ３７

利用実績 ―― ３８

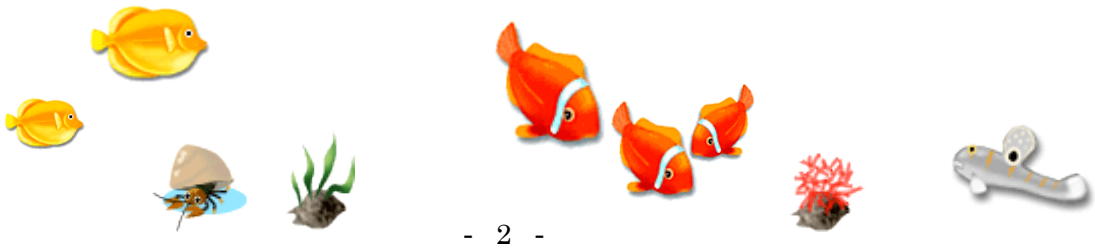
調　査　研　究　事　業

事　業　名	ウォーターワイズⅢ
趣　　旨	近年の大災害をきっかけに、市民の防災への関心は大幅に高まってきており、自然の放つエネルギーの巨大さに畏怖しながらも安全を獲得しようとする努力が各方面でなされている。また、多様化した海のレジャーや海辺での活動時の海難事故防止の必要性もさらに高まってきている。自然体験活動の教育機関である当施設での「自然の中の危険から身を守る」教育への期待は、なお一層大きなものになっていると言える。 そこで本年度は、ウォーターワイズの考え方を基に、当施設の設備・備品や近隣の海の活動ポイントなど、教育的活動に適する資源を有効に活用し、直接自然の素晴らしさやエネルギーを体験する新たなプログラムの開発をスタートさせることとした。 ここで述べるウォーターワイズ（WaterWise）とは、水（water）に賢くなる（wise）という意味の造語で、ニュージーランド発祥の水辺での活動プログラムのことである。このプログラムは、セーリングやカヤッキング等のウォータースポーツを通して、その楽しさや素晴らしさに気づかせながら水辺環境への理解を促し、環境を保護する意識や責任感を養うとともに、水辺における安全教育（water safety）を行うことを主なねらいとしている。 当施設で開発を目指すプログラムでは、水辺での様々な活動や海洋スポーツ等を通して、海浜活動の楽しさや素晴らしさに気づかせながらも、自然の危険な側面についての認識や安全な関わり方への正しい理解を促し、「生きる力」を養うことを目的としたものにする。
調 査 対 象	小学校 5，6 年生，中学校 1 年生
実 施 期 間	平成 26 年 1 月～平成 28 年 3 月 平成 25 年度　新規プログラム開発協議会による協議 平成 26 年度　協力校による開発プログラムの実施と教育的効果の分析 実施後参加者アンケート項目の検討 平成 27 年度　開発プログラムの改善と事業成果のまとめ
調査校	室戸市立羽根小学校 東洋町立宍喰小学校 大洲市立平野中学校

活動プログラム　（1 泊 2 日+事後フォローアップの例）

	１日目	２日目	後日
ＡＭ		波の力を体験する活動プログラム	講話 演習
ＰＭ	水流の力を体験する活動プログラム		
夜	振り返り		

運営の留意点	教育的効果を検証するため、当施設が独自に作成した「ウォーターワイズⅢアンケート」を事前、事後、1 ヶ月後に実施する。また、新規プログラム開発協議会委員会を設置し、助言をいただく。 近隣の施設と協力して、所外に出た時の避難場所などの提供を受けられるように連絡を取り合う。
事業の成果	本年度「ウォーターワイズⅢ」を立ち上げ、企画していく過程で、室戸近郊の他施設との交流や連携を図ることができた。その関係から、新規プログラム開発協議会委員会を設置し、2 泊 3 日の防災やジオパークなどの視点や参加校のニーズを取り入れながら、新しい海の活動プログラムの開発を行い、実施することができた。 また、新規プログラム開発を行う過程において、職員の防災に対する見識も深まり、海の活動のマニュアルの改訂にも役立った。
事業の課題	活動の具体的な目的・内容に関しては、今年度新規プログラム開発協議会委員の協力を得てモデルプランを作成し、実施することができた。ただ、評価システムの構築が不十分である。評価項目は「自然の偉大さ」「自然への親しみやすさ」「自然の力の大きさへの認識」「実際に実行に移す認識」「活動の楽しさ」等でよいのか、評価の方法はアンケートを活用するのか、他の方法を活用するのか、評価システムの構築が大きな課題となってくる。 また、悪天候により通常の活動が制限されるなど、学習の効果が十分に発揮できないケースも考えられる。今後は、天候による活動場所の変更があった場合でも実施可能な効果的な指導方法の工夫を模索していくことも必要になる。
今後の方向性	これまで 3 年間開発したプログラムを募集団体に対して効果の検証を行っていく。その中で次年度以降の新たなウォーターワイズの方向性を探っていく。



教　育　事　業

事　業　名	①　**ボランティア養成講座** ②　法人ボランティア自主企画事業 **「クエストキャンプ～とことんチャレンジ！いろんな自分に出会うまで～」**
趣　　旨	①　国立青少年教育施設で教育効果の高い自然体験・生活体験活動の機会を提供するために、研修支援や教育事業及び業務においてボランティア活動を行う法人ボランティアを育成する。 ②－1　事業の趣旨 法人ボランティア自身で事業の企画・立案・運営を行うことにより、１年間のボランティア活動の成果を発揮する場を設け、法人ボランティアの資質向上につなげる。 ②－2　自主企画事業の要旨 集団生活や体験活動の中で様々な課題に挑戦し、互いに認め合うことで自己肯定感を高める。
対　　象	①　当施設の法人ボランティアとして活動する意思のある者。 小学校等が実施する自然体験活動を支援する意志のある高校生以上の者。 ②　小学校 4～6 年生
実 施 期 間	①平成 27 年 5 月 23 日（土）～　24 日（日） ②平成 28 年 1 月 16 日（土）～　17 日（日）
参加者／定員	①　37 名／50 名　　②　72 名／40 名

①活動プログラム	**②活動プログラム**
5 月 23 日（土） 8:30 開講式 9:00 「青少年教育の理解」 10:30 演習Ⅰ「野外炊事」 14:30 「救急救命法」 19:00 「ボランティア活動の意義」 5 月 24 日（日） 9:00 「青少年教育施設の現状と運営」 10:30 「法人ボランティアの登録制度について」 12:45 閉講式、アンケート	1 月 16 日（土） 13:00 開講式・アイスブレイキング クエスト①～巨大すごろく　段ボールオブジェ作り～ 18:00 クエスト②～暗闇探検～ 1 月 17 日（日） 9:00 クエスト③～ペットボトルロケット～ 11:00 野外炊事 13:00 閉講式・アンケート・感想記入
①事業のねらい	**②事業のねらい**
自然体験活動の基本的な知識、技能の習得。集団で活動するプログラムで、子どもたちの人間関係に配慮しながら互いの協力を促し、適切な支援ができる法人ボランティアの育成。	研修支援や教育事業及び業務においてボランティア活動を行う法人ボランティアを育成する活動のまとめとして、法人ボランティア自らが企画・準備・運営をする。企画事業を通して、法人ボランティアとして一つの

	事業を作り上げるスキルを身につける。
①事業の成果	**②事業の成果**
参加者同士が様々な場面で自分の思いを伝えあうことにより、初めは緊張していた１年生も、積極的に考え、発言できている場面が多く見られた。また、法人ボランティアのOBが自分の体験や変容を話したことで、ボランティア活動に対する意識が高まり、理解も深まったと思われる。これから１年のスタートをきる意味において、とてもいい雰囲気で講座を終えることができた。	「とことんチャレンジ！いろんな自分に出会うまで」というサブテーマのように、「新しい友達ができた」「あきらめずにみんなで最後までがんばれた」等、肯定的な感想が多かったことから、法人ボランティアが目指していた「参加者自身が自己の可能性に気付く」ことは成し遂げられたのではないかと思われる。いろいろな場面で、参加者が話し合ったり協力したりしながら、積極的に課題に取り組んでいる姿が見られた。参加者の興味が持続するよう、法人ボランティア達が工夫を重ね、4 ヶ月の間準備をしてきた成果だと言える。
①課題と今後の方策	**②課題と今後の方策**
質の高い法人ボランティアを育成するためには、研修を更に重ね、特に参加者の要望に応えられる内容を検討する必要がある。また、安全管理やリスクマネジメントについては事業ごとにケースを考えて行動しなければならないことが予想されるので、施設だけの研修ではなく、いろんな研修の機会を紹介することで人材育成につなげたい。 また、大学との単位制につながる連携が必要である。	● 当初企画した段階からたくさんのことをねらいすぎていたので、かえって分かりにくくなってしまっていた。ねらいをもっと絞り、それを達成するために、個人は、そして集団は何を目標とするのか、すっきりと整理した上でチラシを作成したり活動を計画したりすべきである。 ● 例年オリエンテーリング的な内容や野外炊事等、同じような活動になってきているので、今後は、活動場所や内容など若者らしい大胆な発想を期待したい。 ● 事業を安全に実施するために、子どもたちの様々な動きを予想して対策を講じておき、適切な指導をする必要がある。

事　業　名	日本列島ともだちの輪
趣　　旨	異なる地域の子どもたちが交流し、生活様式や自然環境などの違いを体験するとともに『ともだちの輪』を広げ、それぞれの地域の良さを発見する。
対　　象	高知県内に住む小学5年生から中学2年生までの児童・生徒と、組合立丹波少年自然の家の募集に賛同した近畿地域の小学5年生～中学2年生までの児童・生徒
実 施 期 間	① 夏編　平成27年　8月17日（月）～平成27年　8月20日（木）３泊４日 ② 冬編　平成27年12月26日（土）～平成27年　12月28日（月）2泊3日
参加者／定員	① 64名／60名　　② 55名／64名

①活動プログラム	②活動プログラム
8月17日（月） 14:30 室戸参加者アイスブレイキング 16:15 開講式 16:45 仲間づくり 18:30 室戸の海のスライドショー 8月18日（火） 9:00 海浜活動 オーシャンカヤック、スノーケリング 18:45 レクリエーション 8月19日（水） 9:00 室戸世界ジオパークセンター見学 10:00 スジアオノリ収穫体験、 ジオパークフォトビンゴ 16:00 カツオのたたき作り体験 18:00 お別れパーティー 8月20日（木） 9:30 閉講式	12月26日（土） 8:30 高知市内出発 14:00 はじめのつどい 交流ゲーム 16:00 丹波の名産品を使用した料理体験 19:00 交流レクリエーション 12月27日（日） 11:30 植村直己記念館見学 13:00 コウノトリの郷公園見学 19:00 お別れパーティー 12月28日（月） 9:45 化石発掘体験 ちーたんの館（恐竜資料館）見学 12:15 終わりのつどい 13:00 解散　丹波出発

活動の様子	【夏編 in 室戸】 1日目は、初めて室戸と丹波の参加者が顔を合わせるので、アイスブレイキングで交流し、班活動をスタートさせた。夜は、研修指導員である釼物氏による「室戸の海のスライドショー」を見て、室戸の海で見られる様々な種類の生き物について知り、翌日の海の活動につなげた。 2日目は、室戸名物の海の活動を体験した。2つのグループに分かれ、午前午後でスノーケリング（残念ながら波が高く、港内で行った）とカヤックをした。夜はレクリエーションで班の絆を深めた。 3日目は、おそろいのTシャツを着て記念撮影をした後、室戸世界ジオパークセンターに移動し、班ごとに見学した。その後、2つのグループに分かれ、海洋深層水で育てているスジアオノリの収穫と、室戸岬周辺のジオパークフォトビンゴを体験した。岬でお弁当を食べた後、自然の家に戻り、カツオのたたき体験を行った。班で1匹、カツオをさばき、わらで焼いて皿鉢に盛り付け、夜のお別れパーティーで美味しくいただいた。

	4日目は、アンケートと感想を書いたあと、閉講式を行った。すっかり仲良くなった友達と別れを惜しみつつ、冬編での再会を約束していた。 【冬編 in 丹波】 1日目は、久しぶりに室戸と丹波の参加者が顔を合わせるので、アイスブレイキングで交流し、班活動をスタートさせた。夕方は、丹波の特産物である黒豆と小豆を使ってクレープを作った。夕食後はレクリエーションで、再会による緊張をほぐした。 今年は雪不足のためスキーができず、2日目は植村直己記念館と兵庫県立コウノトリの郷公園の 2 つの施設を見学することとなった。雪遊びを楽しみにしていた高知県の参加者にとっては残念だったが、終日班で行動したことにより、仲間との絆がより深まったように感じた。 3日目は，丹波で最近化石が発掘された場所に行って、化石発掘体験と、資料館の見学を行った。資料館では化石を最初に発見された足立さんが説明をしてくださった。昼食後アンケートと感想を書き、閉講式を行った。すっかり仲良くなった友達と別れを惜しみつつ、未来での再会を約束していた。
本事業の成果	夏編ではバディで協力してカヤックをこいだり、班で分担してカツオのたたきを作ったりして、友だちとの絆を深め高知の良さを体感し、冬編へつなげることができた。冬編ではスキーができなかったことは残念だったが、代わりに班単位で活動する時間が長くなり、友だちとの絆がいっそう深まったと言える。活動そのものが目的で参加した子どもたちも、他者と交流し、心を通わせることの大切さを改めて感じることができた。
事業の課題	活動も毎年同じような内容になっていたが、今年は夏編の時期をずらし、室戸の大地や風土、食文化を一緒に体験することで友だちの輪を広げ、交流を深めることを目的とした。今後もこの事業を続け、ねらいを達成するためには、丹波少年自然の家との連携を深め、より有効な活動に絞って計画、実施するとともに、一人ひとりが自分の目標を持って臨むような働きかけが必要である。
参加者の感想	● 私はこの「日本列島ともだちの輪（夏編）」に参加し、知らない友だちと会うのはとても緊張しました。4日間で楽しかったことは、やはり2日目のオーシャンカヤックです。バディと「右、左…」と言いながらパドルをこぎました。一番うれしかったことは友だちが増えたことです。このまま冬編もがんばって、友だちをいっぱいつくろうと思います。リーダーの皆さん、ありがとうございました。 ● 室戸で別れて4ヶ月たちましたが、丹波の友だちは僕のことを覚えてくれていたので、とてもうれしかったです。スキーができなくなってしまってとてもショックでしたが、楽しかったことが山ほどありました。

事　業　名	黒潮チャレンジキャンプ
趣　　旨	足摺から室戸岬まで、黒潮の流れに沿って自転車での旅。仲間とともに困難に立ち向かい、様々な体験を通して、自己肯定感や社会の「生きる力」を育むことを目的とします。
対　　象	中学生・高校生
実 施 期 間	平成 27 年 8 月 21 日（金）～平成 27 年 8 月 25 日（火）　　4 泊 5 日
参加者／定員	10 名／18 名
活動プログラム	8 月 21 日（金） 12:00 開講式 13:00 マウンテンバイクで移動（土佐清水市～黒潮町） 19:00 ミーティング（目標設定） 8 月 22 日（土） 8:00 マウンテンバイクで移動（黒潮町～中土佐町） 16:00 夕食作り、海水浴 19:00 ミーティング 8 月 23 日（日） 7:00 朝食づくり 9:00 マウンテンバイクで移動（中土佐町～香南市） 19:00 ミーティング 8 月 24 日（月） 8:15 マウンテンバイクで移動（香南市～所） 18:15 生還パーティー 19:00 ミニキャンプファイア 8 月 25 日（火） 9:30 後片付け、振り返り 13:00 閉講式

活動の様子	（1 日目） 　高知市内で全参加者がバスに乗り、足摺岬までの移動中に車中でグループリーダー中心に初対面の仲間とグループ内での自己紹介や目標設定を行った。足摺岬到着後、ジョン万次郎少年像前で開講式を行った。出発地の四万十市まで移動後、一人一人のマウンテンバイクを調整し、グループごとに元気に出発。気候にも恵まれ、予定通り 30ｋｍを走破し、宿泊地幡多青少年の家に到着した。夕食後のミーティングでは参加者一人一人の目標と各グループの目標を設定した。 （2 日目） 　快晴の下、幡多青少年の家を各グループごとにマウンテンバイクで出発し、中土佐町を目指した。心配していた登り道の連続だったが、各グループごとにペース配分を考えたり励まし合ったりしながら走破し、全員が頂上の七子峠からの眺望を楽しんだ。宿泊地である中土佐町人権啓発センターに到着後、海水浴を楽しむ予定だったが、海が荒れていたため断念し、近くの川で体を冷やした。夕食後、浜辺に降り潮騒を聞きながら、グループごとに花火を楽しみ親睦を深めた。 （3 日目） 　早朝から荷物をまとめた後、自分たちで作った朝食を食べながら、一日の行程を確認した。出発地の道の駅「かわうその里すさき」まで移動後、マウンテンバイクに乗り、グループごとに出発。海岸線の曲がりくねった道と何度も訪れる登り坂に心が折れる参加者も多かったが、グループ内で励まし合う場面も多く見られるようになった。目的地の龍馬像に到着したが、更に足を延ばして南国市までマウンテンバイクで進んだ。予定よりも距離を伸ばし約 50ｋｍの行程となったが、リタイヤする者もなく全員で宿泊地の県立青少年センターに到着した。班別ミーティングでは一日の行程を振り返り、翌日のゴールに向けてペース配分を話し合うとともに、互いの成長を認め合う話し合いが行われた。 （4 日目） 　青空が広がる気持ちの良い朝を迎えたものの、海上では台風が接近してきていて海は荒れ模様。そのため予定していた途中区間の船の移動を変更し、バスでの移動に。道のりも当初の予定 47ｋｍから約 55ｋｍに延長。これまで三日間の疲労もずいぶん溜まっている様子だったが、距離の延長にも全員望むところと意気揚々。この三日間で随分自信をつけた様子が感じられた。気持ちの良いサイクリングロード区間を快走し、順調に中間点の安芸市に到着。室戸市内に入り、目指す中岡慎太郎像まで 10ｋｍ足らずとなったところで、走行ペースで意見が対立するグループがでたが、グループリーダーが見守る中、参加者同士で自分の意見を伝え合い、お互い納得することができた。室戸岬先端の中岡慎太郎像に全員到着し喜びを分かち合った。夜の生還パーティーでは、四日間の楽しかった思い出を語り合いながら大いに盛り上がっ

	た。その後のミニキャンプファイアでは、各グループごとに小さなたき火を囲み、静かな雰囲気の中、自分の心をオープンにして四日間の旅を振り返り、苦しかった時にかけてもらった一言や言えなかった本音を伝え合うことができた。 （5 日目） 　台風が近畿方面に上陸し、朝から強風で全員の帰路が心配される中、四日間旅をともにしたマウンテンバイクの整備を行った。車体やチェーンをきれいにし、ブレーキやギア、タイヤの空気圧などを調整し、道具への感謝の気持ちも表した。振り返りの時間では、落ち着いた雰囲気の中、自分自身や周囲の変化に思いを馳せた。全体発表では自分の思いを素直に言葉にし、グループの仲間やリーダーへの感謝の言葉や自分や仲間の言動の変化を認める言葉がたくさん聞かれた。閉講式では完走賞が全員に授与され、各方面に分かれていく仲間とのお別れをした。
事業の成果	参加者の多くが参加の動機として“240ｋｍの道のりは大変だと思うが、その大変なことを仲間とともに克服することで、何かが得られるのではないか”という趣旨のことを挙げていた。一日一日、目標を達成するごとに、仲間と協力する場面やリーダーに頼らず自立する場面が多く見られるようになってきた。最後の振り返りでは、“最初はこのメンバーでやっていけるのかと心配していたが、日毎に心が通うようになり、最後はみんなで大きな声で励まし合いながらゴールを目指すことができた。四日間で自分の殻を破って、自分の気持ちを素直に表現できるようになった。”“240ｋｍなんて距離は絶対無理だと思っていたけど、みんなで励まし合いながら頑張ったら全員ゴールできて、自分も仲間もすごいなと思った。”という感想を述べている。今回は 240ｋｍという距離を前面に出し、課題克服の難易度を客観的に数値で表すことで、参加者各自のこれまでの経験と照らし合わせて難易度の高さを実感させることができたのではないかと思う。達成困難と思われるプログラムを成し遂げて自己肯定感を高めることができたことや、仲間との共同生活を通して社会性や協調性を感じることができたことは、事業の趣旨が達成されたものと考える。 　事業の運営に関わった法人ボランティアは、企画段階から積極的に関わってきた。参加者がよりよく成長するために、どのような課題設定をし、どの程度自主性を尊重すれば良いのか検討することができた。また、本番の五日間では参加者と一番近いところで関わり、参加者の表情や言動の変化から大きな心の成長を感じることができていた。このようなことからも参加者だけでなく、法人ボランティアにとっても体験を通して生きる力を育む“やりがい”のある事業となった。

事業の課題	● 募集定員の確保と実施時期の調整。 ● 安全面の確保。距離を延ばすことで危険な道路も多くなり、結果的にバスでの移動を余儀なくされるところもあった。 ● グループごとの自主性を高めるためペースは各グループに任せており、長距離移動の際にはグループ間の距離が開いた。その結果、水分等の補給が十分にできない区間ができた。 ● 毎日の振り返りを重視したが、時間が掛かり、参加者の休息時間を圧迫する日もあった。
参加者の感想	● ２度目の参加で、一年ぶりに会えた友達もいて嬉しかった。５日間を終えて、さらに新しい友達ができて、参加してよかった。 ● 昨年度参加して、自分の力でゴールできなかったので今年こそは全て自分の力でゴールしたいと思って参加しました。一日目から苦しかったけど、今回は体調管理も意識して行い、最後まで自分の力でゴールできた。来年は受験で参加できないので、最後にいい思い出ができました。 ● 体調が悪く班のペースについて行けず班のペースを乱すこともあったけど、みんなでペースや休憩のタイミングを話し合って、最後はみんなとゴールできて嬉しかった。 ● 一日目はリーダーが一生懸命声を出していたけど、夜のミーティングで話し合って、翌日から一人一人が声を出して盛り上げていけたのでよかった。 ● 最初は嫌なことも我慢して何も言わなかったけど、だんだん慣れてきてお互いに思っていることが言い合えるようになって、最後は仲良くなれた気がする。 ● ３度目の参加だけど、今年は距離が何倍にもなっていて、初めは完走できないと思っていたけど、全員完走できて驚いた。 ● ゴールした後、班ごとに小さな火を囲んだ振り返りで、お互いに思っていたことが聞けて、案外みんな同じ事を考えていたんだなと思った。 ● 来年はどんなキャンプになるか分からないけど、来年も挑戦して絶対に完走します。

事　業　名	ジオパーク防災キャンプ
趣　　旨	南海トラフと共生してきた地域として、ただ地震・津波を恐れるのではなく、ジオパーク学習の一環として正しい知識を身につけ、有事の際に冷静かつ率先して避難する青少年（ジュニア防災リーダー）を育成する。
対　　象	小学 5 年生～高校 2 年生
実 施 期 間	平成 27 年 9 月 19 日（土）～平成 27 年 9 月 22 日（火）　　3 泊 4 日
参加者／定員	28 名 ／ 40 名
活動プログラム	9 月 19 日（土） 11:45 開講式 13:30 「大地の成り立ちを感じてみよう！」 室戸世界ジオパークセンター見学、室戸岬散策 16:15 サバイバルクッキング 19:30 学ぼう！ロープワーク 9 月 20 日（日） 10:20 波乗り体験 18:30 避難所生活計画① 9 月 21 日（月） 8:40 講演「被災体験から学ぶ」 13:00 避難所生活計画② 16:00 夕食作り「限られた食材、水で楽しい夕食を食べよう！」 19:00 避難所模擬体験「夜をみんなで乗りきろう！」 9 月 22 日（火） 9:00 振り返り、まとめの会　　11:45 閉講式
運営の留意点	室戸ジオパーク協議会の地質専門員や東日本大震災の被災学生など、外部の様々な方々の協力が不可欠な内容なので、事前の打合せは密に行った。
事 業 の 成 果	東日本大震災で実際に被災された方の講演や、段ボールハウスによる避難所模擬体験などを通して、よりリアルに被災状況をイメージできたのは動機づけの面からも大きな成果と言える。
事 業 の 課 題	被災を想定する際、注意する必要があるのは津波や建物崩壊、電源喪失のみならず、火災による煙からの避難や避難経路の確保等、様々な課題への対応が必要となる。可能な限り様々なケースを想定したプログラムを検討したい。
今後の方向性	一度だけの事業参加では、知識や技術を十分習得したと言えない。本事業のみならず、様々な形で防災に関するプログラムを提供していきたい。また、内容についても最新の知見を採り入れられるよう、常に見直しを行いたい。

事　業　名	**自然ふれあい体験事業**（共催：高知県心の教育センター）
趣　　旨	不登校等課題を抱える青少年が自然と触れ合う体験を通じて、人との関わりや達成する喜びを得るとともに、指導者間のネットワーク作りに資する。
対　　象	不登校など心に悩みを持つ中学生・高校生およびその指導者・保護者
実 施 期 間	平成 27 年 10 月 8 日（木）～平成 27 年 10 月 9 日（金）　　1 泊 2 日
参加者／定員	32 名／30 名
活動プログラム	10 月 8 日（土） 13:30 ドルフィントレーナー体験 16:00 野外炊事 19:30 保護者会 10 月 9 日（日） 9:30 オーシャンカヤック、磯観察 13:00 振り返り
運営の留意点	共催団体と常に連絡を取り合い、役割分担を確認しながらも、状況に応じた柔軟な対応ができるよう、密な関係性を構築した。 また、参加者の体調を把握し、その状況に応じたプログラムになるよう、いろいろなケースを想定して準備した。
事業の成果	参加した子供たちの多くがまだ昼夜逆転の状態であるため、自宅や支援センターから離れ、自然の家において規則正しい生活（早ね早起き朝ごはん）を送ること自体が大きな挑戦であるが、参加者同士で助け合ったり、スタッフがサポートしたりして、全員が予定どおりに活動することができた。 無理をせず休憩時間をとるなど、ゆとりのある活動計画だったので、一人ひとりが自分のペースで進めることができた。また、親子で一緒に過ごす時間が十分に持てたことや、保護者間で交流することができたのもよかった。
事業の課題	2 日間の事業をきっかけに、参加者のこれからにつながっていくようにしたい。 高知県心の教育センターが行っているフォローアップに可能な範囲内で参加したり、参加者のその後の様子を聞いたりして、参加者個々の変容を追跡し、今後に生かしていく必要がある。
今後の方向性	毎年活動が同じなので、高知県心の教育センターと連携を深め、参加者の自立のためにも質的な変換を図り、より有効的な体験内容を提案、支援していきたい。
参加者の感想	● いろいろな活動を通してコミュニケーションをとれたので、とても楽しかった。 ● 全員で協力して野外炊事を行ったことで、参加者同士も仲良くなれたので、来年も続けてほしい。 ● 何度も来ているので、やることが同じなのが少しさみしく感じた。

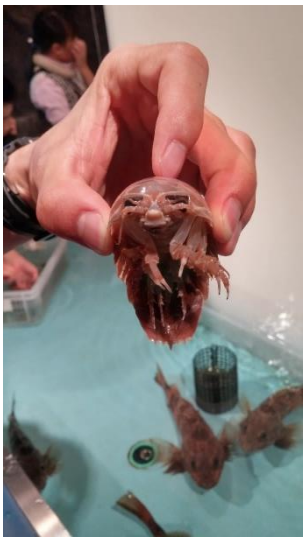
事　業　名	体験！発見！ジオパーク
趣　　旨	室戸世界ジオパークの地質だけでなく、その地質や地形を生かした室戸の人の営みを知ることで、ジオパークの地学や歴史学に興味関心を高めるとともに、自然の偉大さと人間に与える恵みの大きさを体感する。
対　　象	小学4年生～小学6年生
実 施 期 間	平成27年11月21日（土）～平成27年11月23日（月）　　2泊3日
参加者／定員	25名／40名
活動プログラム	11月21日（土） 12:00 開講式 13:30 ジオパーク散策（崎山台地、新村海岸、室戸岬） 19:30 天体観測 11月22日（日） 7:00 大敷網水揚げ見学 9:00 海洋深層水工場見学 10:30 アクアファーム見学 14:00 ゆず絞り体験、ゆずミルク作り・試飲 18:30 発見発表会準備 11月23日（月） 9:00 室戸世界ジオパークセンター見学、発見発表会準備 10:00 発見発表会、備長炭オブジェ作り 12:45 閉講式
活動の様子	（１日目） 高知市内をバスで出発し、一路室戸へ向かった。車窓から室戸以外の山の形を眺め、これから行く室戸の山の形との違いを意識させた。到着後は、所から徒歩で崎山台地を歩き、延々と続く緩やかな下り坂を実感した後、法満坂を一気に下り斜面の角度が大きく違っていることを体感し、海成段丘の構造について理解を深めた。 その後、海岸ではかつて深海の海底だった根拠となる化石や地震の際にできた断層の跡などを観察し、崎山台地も大昔は海底にあったことや隆起の仕組みについて、室戸世界ジオパークセンターの地理専門員から説明を聞いた。 自然の家が台地の上にあり、周囲に高い山がないことを実感するために天体観測を予定していたが、曇天のため明るい内に周囲を見回して確認した。 （２日目） 夜明け前に自然の家を出発し、大敷網の水揚げを見学に向かった。次々に揚がる魚の中から漁業協同組合長が魚を取り出し、室戸の海の様子について説明を聞いた。その後、海洋深層水の工場で硬度の違う海洋深層水を飲み比べたり、アクアファームで深海魚を触ったりする活動を通して、室戸の海の利用について考えた。午後からは高知県安芸農業振興センターから普及指導員を招い

	て、室戸周辺のゆずを中心とした柑橘類の話を聞いた。珍しい柑橘類に子供たちの興味も高まった。実際に器具や自分の手でゆずを絞り、ゆずの果汁に牛乳を混ぜた物を海洋深層水で割り、試飲をした。子供たち自身で簡単に作れておいしく飲めることから、子供たちの喜びも大きかった。 　夜は、これまで二日間で発見した室戸の特徴を個人で付箋に書き出し、グループ内で付箋に書いたことを元に発表し合った。 （三日目） 　会場を室戸世界ジオパークセンターに移し、室戸ジオパークセンターの地理専門員に助言をいただきながら、発表会を行った。室戸で発見した室戸の特徴や室戸の人々の生活の工夫を元に、自分たちで考えた室戸の特徴を生かす工夫を発表した。それぞれのグループが違った視点から室戸の特徴に注目しており、多様な発表となった。発表会後、室戸の思い出作りとして備長炭を使った炭オブジェを作った。最終日がちょうど勤労感謝の日ということもあり、家で待つ家族への感謝の気持ちをメッセージカードに添えて、大切に持ち帰る子供がたくさんいた。
事業の成果	体験を通した学習を中心に構成し、室戸の特徴や生活の工夫を子供たちが実感できるようにしたことで、４年生中心の参加者であったが、理解を深めて自分たちで考えることができた。また、地域発展のために努力されている団体に協力を仰いで見学させていただいたことで、子供たちにもその熱意が伝わり、本物ならではの発見があった。発表会の中で子供たち一人一人の個性が感じられ、自分の言葉で思いを語れていた。
事業の課題	一日目の、ジオパークとの出会いの場面となる導入の工夫が今後も必要である。室戸に眠る地域素材がまだまだたくさんあるので、潜在的な地域素材の発掘に力を入れていく必要がある。
参加者の感想	●　ゆずミルクが市販の物よりもおいしくてびっくりしたので、ゆずを自分の手で絞って飲めるようなお店があったらおもしろいと思う。 ●　海洋深層水はミネラルが多くて体によいので，水として飲むだけでなくサプリメントとして売り出せばよいと思う。 ●　お遍路さんが多いので、空海が修行した洞窟のような宿泊施設があったらとまってみたい。 ●　室戸青少年自然の家には自然がたくさんあるので、ツリーハウスのような宿泊施設があったら嬉しい。

事　業　名	親子 de クッキング　①棒パン作り　②ピザ作り
趣　　旨	これまで子供の孤食や偏食が問題として取り上げられてきたが、近年親世代にもその問題が広がりつつある。室戸の自然の中で育まれた大地・海・太陽の恵みを親子で共に調理したり味わったりする中で、食の大切さを実感させる。
対　　象	平成 27 年度親子対象事業参加家族
実 施 期 間	①平成 28 年 1 月 30 日（土）～平成 28 年 1 月 31 日（日）　1 泊 2 日 ②平成 28 年 2 月 20 日（土）～平成 28 年 2 月 21 日（日）　1 泊 2 日
参加者／定員	①2 家族 7 名　②8 家族 25 名／8 家族 32 名程度

①活動プログラム	②活動プログラム
1 月 30 日（土） 15:00 おもしろ自転車、キンカン採集 1 月 31 日（日） 9:00 棒パン作り	2 月 20 日（土） 13:00 室戸世界ジオパークセンター等見学 2 月 21 日（日） 9:00 ピザ作り
①運営の留意点	**②運営の留意点**
ゆっくりと親子でコミュニケーションをとりながら進められるよう、時間配分にゆとりを持たせた。 1 日目は悪天候のため、予定どおり室戸広域公園や冒険の森に行くことができなかったが、2 家族だけだったので、希望を聞いて話し合い、一緒に行動するようにした。	衛生面と子供たちの作業しやすさを考慮し、生地作りは野外炊事場ではなく集会室で行った。
①事 業 の 成 果	**②事 業 の 成 果**
参加者が少なかったので、家族間だけでなく、法人ボランティアや職員と参加者とのコミュニケーションも図ることができた。 棒パンは初めての試みだったが、心配していた発酵も順調に進み、いろいろな具材を使ったパンを香ばしく焼くことができた。 ボランティアリーダーや職員が子どもたちをみてくれることで、両家族の父親、母親とも日常の忙しさから解放され、ゆったりとした気持ちでリフレッシュできたようだった。	ピザ作りは大変簡単で、専用釜も作ったので、これからの事業でも活用していきたい。
①事 業 の 課 題	**②事 業 の 課 題**
計画、広報が遅かったこと、学校の行事と重なったことが原因で参加者が非常に少なかった。棒パンは簡単で、スープ等と組み合わせると地域色あふれるおいしい食事になるので、今後は早めに企画し、多くの参加者に体験し	一日目の活動を施設開放（自由時間）で考えていたため、雨天時プログラムを考えていなかった。急遽、室戸世界ジオパークセンターとアクアファームの見学に変更したが、どちらの施設も親切に対応してくれたので利用者に

てもらえる事業としたい。	も満足してもらえ、結果的によかった。しかし、事業で集めた場合、フリーな活動といっても相談には来るので、やはり雨の対応は考えておくべきだった。
①参加者の感想	**②参加者の感想**
● パンをこねたり、たき火をしたり、山つたいをしたり、自宅近辺ではすることのない体験ができました。パン、すごくおいしかった。子ども 3 人とも、リーダーさんやスタッフの皆さんに遊んでもらって、親はリフレッシュでき、子どもたちも思う存分楽しめました。 ● 準備をしっかりしていただいたおかげで、子どもと 2 人だけでもすごくおいしいパンが作れて感激しました。パンをほおばった時の娘は、何とも言えないいい表情をしていました。子どもが小さいうちにいろんな体験をさせてやりたいので、室戸のいろんな活動にこれからも参加させていただきたいです。	● ピザ作りは初めてでしたが、子どもたちも楽しく参加できたようです。また機会があれば参加してみたい。 ● 雨天の場合のジオパーク等考えていただいてありがたかった。 ● ピザもめちゃくちゃおいしくて（しかも簡単で）楽しかったです。



事　業　名	**キッズデイ⑤「親子でミュージック♪」**
趣　　旨	親子で楽器を手作りする中で親子のコミュニケーションを図る。また、普段触れる機会のない様々な楽器を演奏したり、アマチュアミュージシャンのミニライブで生の音楽に直接触れる体験を通して、音楽への興味・関心を深める。
対　　象	小学3年生以下の児童・幼児とその保護者の方
実 施 期 間	平成 28 年 2 月 13 日（土）～平成 28 年 2 月 14 日（日）　1 泊 2 日
参加者／定員	33 名／100 名
活動プログラム	2 月 13 日（土） 13:00　手作り楽器を作ろう！ 19:00　お山の音楽会 2 月 14 日（日） 9:00　いろんな楽器を演奏してみよう！ 11:00　合奏
運営の留意点	ゆっくりと親子でコミュニケーションをとりながら進められるよう、時間配分にゆとりを持たせた。また、楽器の演奏技術の習得よりは、音を出すことの楽しさを体感してもらうことに主眼を置いた。
事 業 の 成 果	手作り楽器を作る時間では、子供たちは最後まで飽きることなく集中していたし、大半の保護者も一緒に楽しんでいた。夜の音楽会では親子で並んでゆっくり鑑賞できたし、最終日の演奏体験も親子の会話が弾んでいる様子が見受けられた。親子が同じ立場で一緒に活動できることを念頭に置いたプログラム構成にしたことで、「音楽」を通して親子で共通の体験を得られ、コミュニケーションのきっかけづくりになれたのではないか。
事 業 の 課 題	今回の事業は、あくまで音楽に親しんでもらうきっかけづくりだが、興味が出てきた参加者に対して演奏の技術を初級、中級…とレベルに合わせて教えられるようなフォローアップの事業を開催することが望ましい。
参加者の感想	●　みなさんの演奏が素晴らしかったです。子供も普段触ることのない楽器にも触れることができ、すごく楽しそうでした。 ●　親子でテレビのない規則正しい生活も楽しいと気づかせてもらえるひと時です。子供も「室戸は楽しい！」ととても気に入ってますので、是非また別のイベントでもお世話になりたいです。

事　業　名	**教員免許状更新講習** 「学級指導・学級経営に生かす自然体験活動①②」
趣　　旨	教員が体験活動の意義について理解するとともに、児童・生徒の集団宿泊活動を効果的に実施するための基本的な指導技術を身につける。また、学習指導要領における体験活動の取扱いを理解し、教育課程の編成や教育活動に取り入れる方法を講義や実習を通して習得する。
対　　象	平成 29 年 3 月 31 日及び平成 30 年 3 月 31 日に終了確認期限を迎える小・中学校教諭
実 施 期 間	①平成 28 年 2 月 13 日（土）選択領域 6 時間分 ②平成 28 年 2 月 14 日（日）選択領域 6 時間分
参加者／定員	①30 名／30 名　　②33 名／30 名
活動プログラム	①平成 28 年 2 月 13 日（土） 9:00 開会行事、オリエンテーション 9:15 実習「野外炊事（カレーライス）」 事前・事後指導、薪割り・火起こし体験 14:00 講義「体験活動の意義と学習指導要領」 15:45 履修認定試験 ②平成 28 年 2 月 14 日（日） 9:00 開会行事、オリエンテーション 9:15 講義「安全管理」 10:45 実習「ジオパークを生かした自然体験活動の指導法」 15:45 履修認定試験
運営の留意点	プログラムのスケジュールの見直し（特に初日）
事 業 の 成 果	災害時に活用できる「災害救助用炊飯袋」を用いて炊飯を行うなど、受講者の要望を取り入れた講習を行うことができた。
事 業 の 課 題	本年度は、初日悪天候のため苦労したが、予定どおりのプログラムが実施できた。冬期の開催であり、気候によっては実施できないプログラムも含まれていた。荒天時のプログラムについては検討の余地がある。
今後の方向性	参加者の要望を取り入れながら、充実した講習になるように運営の改善、講習内容の検討を行っていきたい。
参加者の感想	●　体験することの大切さは常々わかっているつもりでしたが、この事業に参加して改めて体験活動の重要性を再認識しました。そして、体験したあとの達成感や満足感は野外炊事だけでもものすごく感じることができたので、こういった体験をぜひ子どもたちの日々の学習に工夫して組み入れたいと思いました。何のために体験活動をするのかをしっかりとねらいを明確にすることなどを、忘れてはいけない大事なことを学ばせてもらい、本当に勉強になりました。 ●　安全・技術・協力と単純に考えていたが、食材、活動から季節感・環境

	問題を考えることができるのがわかった。また、児童個々の 活動、言動を評価し合うことで子どもたちの自己肯定感を高めて意欲を向上させることもできることがわかった。 　実際の活動場面から危険要因を洗い出すことを体験してみて、複数の目で多面的に見ること、考えることが大切だと思った。事後にヒヤリハットがなかったかを確認し、分析しておくことも必要であると分かった。

事　業　名	**室戸お遍路プチウォーク×仏にであう①②**
趣　　旨	四国讃岐に生まれた空海が若き日に訪れた室戸。その原風景を辿り、仏像などの美術鑑賞や地域の方たちとの交流により、地域の歴史文化に触れる。
対　　象	室戸の仏教美術や遍路文化に興味のある人　①大学生　②一般
実 施 期 間	①平成 28 年 2 月 20 日（土）～平成 28 年 2 月 21 日（日）　1 泊 2 日 ②平成 28 年 2 月 27 日（土）～平成 28 年 2 月 28 日（日）　1 泊 2 日
参加者／定員	①17 名／30 名　　②16 名／60 名
活動プログラム	①2 月 20 日（土） 13:20　遍路道ウォーク　金剛頂寺美術品鑑賞 19:00　レクチャー「仏教美術の見方」　茶話会 2 月 21 日（日） 9:40　仏教美術展オープニングセレモニー出席 室戸世界ジオパークセンター見学、お接待体験、室戸岬探勝 遍路道ウォーク、行当不動見学 ②2 月 27 日（土） 13:20　遍路道ウォーク　金剛頂寺美術品鑑賞 19:00　レクチャー「仏教美術の見方」　茶話会 2 月 28 日（日） 9:40　室戸世界ジオパークセンター見学、お接待体験、室戸岬探勝 遍路道ウォーク、行当不動見学
運営の留意点	室戸市教育委員会と共催で、①大学生対象は、美術関係に興味関心の高い大学生をターゲットに募集し、より専門的なレクチャーを組み入れた。 　②一般対象は、ターゲットをミドル層年代に想定して募集し、歩くコースや説明内容などを対象に合わせたものにした。 　①②共に室戸市との共催により、室戸の伝統文化体験（お接待）や美術展

	オープニングセレモニー出席などのイベントを組み込むことができた。 　夜の茶話会では、地域の方にも参加いただき、その日に体験したことの気づきや感想を述べたり、地域の方からのお話を聞くなどの交流の場を提供した。
事業の成果	大学生には、直接鑑賞しながらの専門家のレクチャーや遍路道を歩くことにより歴史に触れる機会となった。 　一般の参加者にとっては、遍路道歩きや夜の茶話会で地元の方々との交流により、室戸の歴史文化に触れる体験と、室戸ジオパークにより自然の雄大さ素晴らしさを体感するプログラムとなった。
事業の課題	今回の事業は、室戸市教育委員会主催の仏教美術展の開催にタイアップし、市教委と共催したものであるが、このノウハウをいかし、地域の伝統文化体験として遍路歩きを本所の研修プログラムの１つとして検討していく。
参加者の感想	●　室戸の自然的要素から民族文化的要素まで含めたお遍路の相互的なあり様が分かった。それがすごく刺激的で驚いた。 ●　自分達だけでお参りしても分からなかったことが、お寺さんのお話をお聞きしてよく分かり、すごく勉強になりました。歩き遍路もプチ体験でき、よかったです。

事　業　名	**ふれあい通学合宿**
趣　　旨	規則正しい生活をすることにより、自分で生活と学習のリズムを作れるようになるとともに、新しい環境・人間関係の中でも、積極的にコミュニケーションをとることができる子どもの育成を目指す。
対　　象	室戸市内の小学校5・6年生
実 施 期 間	平成 28 年 2 月 21 日（日）～平成 28 年 2 月 27 日（土）　6 泊 7 日
参加者／定員	32 名／58 名
活動プログラム	平成 28 年 2 月 21 日(日) 　13:10 仲間づくり 　15:30 開講式　　16:00 自己紹介 　19:00 仲間づくり　22:00 就寝 平成 28 年 2 月 22 日（月）～25 日（木） 　6:00 起床、朝食　　7:15 登校 　17:15 夕食、洗濯　　18:30 宿題 　19:30 レクリエーション　22:00 就寝

	平成 28 年 2 月 26 日（金） 　6:00 起床、朝食　　7:15 登校 　17:15 夕食 　18:30 キャンプファイア　22:00 就寝 平成 28 年 2 月 27 日（土） 　7:45 朝食、班会　　9:50 閉講式
活動の様子	（一日目） 　自然の家に入所するまでの道のりを法満坂を歩いて登るように設定したが、今年度は天候不良のため実施することができず、その時間を利用して仲間作り活動を行った。グループで協力してゲームを行ったり、全体で体を動かしたりしながら互いの距離を縮めた。また、1 週間のテーマソング「ｇｏｏｄ　ｄａｙ」の歌詞を知り、全員で口ずさみ、緊張感の中にも少しずつ笑みが見られるようになってきたところで一日目の活動を終えた。 （二日目～五日目） 　規則正しい生活習慣と学習習慣を身につけるために，1 時間の自主学習の時間を設けた。学習時間中は静寂の中で集中して勉強に取り組める環境を作ると共に，法人ボランティアが中心となって，理解が不十分な内容を見つけ指導を行った。 　また，学習終了後には，法人ボランティアが主体となってレクリエーションを行った。1 週間の中で、少しずつ個から班、班から全体への関わりを必要とするレクリエーションの内容を工夫して行い、日を追うごとに子どもたちの活動が活発になっていくのが感じられた。 （六日目） 　最後の夜ということで、キャンプファイアを行い、大きな炎を囲んで最後の親睦を楽しんだ。翌日の振り返り活動に繋げるため、初日の出会いから日々の出来事を題材にしたスタンツを行った。時期的に夜間の冷え込みを心配したが、体を動かすスタンツを中心に行うことで、寒さを感じることはあまりなかったが、風が時折強く吹くこともあり、安全管理に苦労した。 （七日目） 　最後の班会で一週間の振り返りを行った。法人ボランティアが作ったビデオを見ながら活動の時の自分たちの気持ちや友達の言葉等を思い出した。一人一人が自分の成長について考え、決意を短い言葉にまとめて、班の中で発表をした。生活をともにした友達や法人ボランティアとの別れを惜しみながらも、みんな笑顔で満足した表情で帰っていたのが印象的だった。
事業の成果	●　室戸市内の学校の大部分が少人数学級で、限られた友人関係の中で生活をしている児童が多いが、今回の事業を通して子どもたちの新たな交友を生み出すことができた。夜間のレクリエーションを仲間づくりの重要な活動として位置づけ、法人ボランティアが中心となって徐々に仲間との関係性を持たせる仕掛け作りを行ったことが効果的であった。

	●　毎日１時間の学習を行ったが、一日目は宿題を終えた後、手持ちぶさたの様子であったが、二日目以降は事前にアナウンスすることで、子どもたちがそれぞれ１時間分の学習準備を事前に行い、集中して学習に取り組めるようになった。 ●　朝の起床から登校までの時間が短く心配していたが、就寝前に登校の準備を済ませ、朝も６時に全員が起床して素早く身支度を調えることができ、余裕を持って予定通りの時刻に自然の家を出発することができた。
事業の課題	●　今年度は試行的に２泊３日で中芸地区の小学生も募集し、本事業と平行して通学合宿を行った。当初心配していた登校時刻の問題はクリアできたが６泊７日の本事業の子どもたちと共通のプログラムでは、関係づくりができはじめたところでの別れとなり、中芸地区の参加児童には中途半端な活動となった。 ●　子どもたちが学校から帰ってきた後、夕食、学習、レクリエーション、入浴、班会と活動が詰まっていて、就寝までにゆっくりと休める時間をとることができなかった。結果的に最終日までに３人が体調不良を訴えることとなった。規則正しい生活の中にもある程度ゆとりのあるプログラムにしていかなければならない。 ●　最終日、部活動等の用事で早めに退所しなければならない参加者が多く、最後のまとめを全員ですることが難しい。金曜日に振り返りを行うなど、プログラム短縮を検討する必要がある
参加者の感想	●　みんなと協力ができ、いい思い出ができた。 ●　レクリエーションの内容が毎日違っていて楽しかった。 ●　レクリエーションにいろいろな工夫があって、いろいろな人と仲良くなれてうれしかった。 ●　一人でいるときにやさしく声をかけてくれてうれしかった。 ●　来年度も参加したいので、中学生向けにも実施してほしい。

生 活 自 立 支 援 事 業

事　業　名	むろと元気塾ⅠⅡⅢ
趣　　旨	経済的に困窮した家庭の子供を対象に、自然体験等の活動を通じた「生活・自立」を支援する取組を行い、子供達の基本的な生活習慣の確立を目指す。 なお、本事業の実施に当たっては、様々な関係機関・団体と連携を図るものとする。
対　　象	小学3年生以下の児童・幼児とその保護者の方
実 施 期 間	Ⅰ 平成27年8月2日（月）～5日（木）　3泊4日 Ⅱ 平成27年9月12日（土）～13日（日）　1泊2日 Ⅲ 平成27年8月26日（水）～29日（土）　3泊4日
参加者／定員	①28名　②13名　③21名
事業の様子	**むろと元気塾Ⅰ** 連携施設職員から、「子供同士の人間関係が浮き彫りになって見えた。特に女の子同士は人間関係の難しさがあることを感じた。しかし、最後の夜、人間関係が良好とはいえない子供たちの間で声をかけあい、ひとつの円になって遊んでいたのが印象的だった。」という話があった。自然の家のような非日常の中、活動をすることで子供たち同士がいつもと違った視点で見るきっかけになったように感じる。 事前打ち合わせの時に連携施設職員から「リーダーシップをとれる子供はいない」という話を聞いていたが、協力しないとうまく進まないオーシャンカヤックの活動でリーダーシップを発揮し、声かけをして頑張っていた子供がいた。事業全体を通して、連携施設職員や機構職員が参加者を認めてやる声かけをすることで、集合の時に全体をまとめようと頑張ってくれたり、進んで何かに取り組もうとしたりする、前向きな姿勢が見られた。 **むろと元気塾Ⅱ** 連携施設職員から、「初めて参加した子供もいて、とまどったり、びっくりした表情を見ることができて大変おもしろかった。」「他人の事や思いやりの気持ちが持てるようになって欲しいとの願いで参加したが、前回参加した子たちは成長していたように感じた。」などの声が聞かれた。シーツ等の片付けや掃除についても、言われてもなかなか動かなかったけれど、積極的にリードしてくれている姿が見えた。 オーシャンカヤックなどの活動で自分のことが先に立ってバラバラになったのが残念だったとの感想もあったが、活動に参加した保護者の方からは、バディを組むことで心強さも加わり、安心して活動できて良かったとの声も聞かれた。 **むろと元気塾Ⅲ**

	海の活動のスノーケリングで、クマノミを見た参加者が「本当にきれいだった。また見に来たい」と話してくれており、本当に楽しかったと喜んでくれていた。 海の活動では、楽しみながら互いのことを考え、行動することができていた。 最終日の活動でリーダーを任された高校生達が最初は「小さな子ども達が思うように話を聞いてくれない」と愚痴をこぼしていたが、完成後には、「いい経験になったみんなの想いが込められた旗ができて良かった」と笑みがこぼれていた。 ３月に比べ子ども達の成長した姿が見られました。片づけや、次の行動へ移るまでの時間が短く感じられました。
活動プログラム	①8 月 2 日（月）～5 日（木） イルカふれあい体験、オーシャンカヤック、スノーケリング、 青のり収穫体験、ぷちも作り体験　など ②9 月 12 日（土）～13 日（日） スノーケリング、室戸の海のスライドショー、オーシャンカヤック　など ③8 月 26 日（水）～29 日（土） 室戸世界ジオパークセンター見学、室戸岬散策、 室戸の海のスライドショー、オーシャンカヤック、スノーケリング、 地引網体験　など
運営の留意点	Ⅰ　参加者は５名程度の単位でグループホーム形式の生活を送っている。ホームの違う子供は年間数回のイベントで顔をあわす程度である。今回５年ぶりに園全体でのキャンプを実施したということである。そのような背景もあり、ホームを越えた子供同士の交流、子供と職員との交流の場がほしいとの要望があった。参加者の年齢層が幅広かったため、全ての活動において全体で交流する場は提供できなかったが、活動を入れ過ぎず、できるだけ全体でゆっくり交流できる時間を設けるように努めた。日頃、ホームや学校が違って話をする機会の少ない同年代同士での交流の機会になっていた。 連携施設職員からは自己肯定感の低い子供が多いと事前に行った打ち合わせで聞いていたため、何かを頑張ったとき等にはその事実を認めるような声かけをするよう心がけた。 Ⅱ　寮生活での中でも、それぞれに家庭の実態の差がある。また、初めての参加者と２回目の参加者との違いもあった。活動内容をすべて新しくすることで、条件を同じにすることや逆に年齢の差に応じてプログラムの内容を選択できるように配慮した。 食事に関しては、普段では食べることの少ないメニューであったり、食事スタイルを意識した。職員もできるだけ同じ場所で食事をとることで、いろんな会話ができるように試みた。

	また、活動の合間に一緒に遊んだり、話をしたりすることで、ありのままを受け入れることや将来のことについてアドバイスできた。 Ⅲ　企画段階での打ち合わせで、今年度の施設でのスローガンもチャレンジとし、「一人ひとりの子どもが様々なことにチャレンジできる機会を提供していきたい。それによって自己表現や自己実現を可能にし、認め合うことで自尊感情を高め、人生を生き抜く強い力を育ませたい。」との要望があったので、その形に沿えるようなプログラムを実践した。 具体的には、１日目は、自分での歩みを大切にする内容（ジオパーク事前学習を含む岬探勝）、２日目は、２人や３人でのバディでの海の活動（オーシャンカヤック、スノーケリング）に取り組む、３日目（地曳き漁業体験、うみがめ博物館見学）と４日目（旗作り）は全員で一致団結できるプログラムを実践しながらの振り返りと一連のストーリーで個々や集団としての成長を促した。
事業の成果	Ⅰ　事業開始時に連携施設職員から参加者に「新たな自分を発見する機会にしてほしい」という話があった。進路選択が近づいている高校生はドルフィンセンターで活動したり我々機構職員と関わったりする中で、自分も野外で人と関わるような仕事に就きたいと思うきっかけになったと話をしてくれた。また日頃は指示がとおりにくいと連携施設職員から聞いていた参加者も、前に立って話をする人にしっかり耳を傾け、話を聞こうとする姿勢が見受けられた。事業開始時には人前で話をすることが躊躇された子供も事業終了時には感想を話せるようになった姿も印象的であった。 Ⅱ　「前回の利用でシーツの片付けや掃除についてもなかなか動かなかったけれど、今回は進んで高学年の子どもがリードしてくれることができていた。」「男子は夜が苦手で、寝付くのに時間がかかった前回に比べ、スムーズに寝ることができたのも成長」「つどいの挨拶も気持ちよくできた」との施設職員からの声も聞こえていた。 初めて参加してくれた保護者は、「子どもは素晴らしい、表情もいきいきとしていて間近に見られたこと、一緒に体験できたことは、親として意義ある２日間になった。」と語ってくれた。この事業の成果であると感じられた。 また、参加者の一人が職員に対してこの仕事への関心を示すような言葉があり、将来の職業を自分自身が意識して学習に取り組んでいけるよう励ましの言葉をかけた。 Ⅲ　参加者は、ひとつひとつの活動を自分なりに楽しみ、いろいろな発想をしながらもいつも以上にコミュニケーションをとり、また、リーダー的な役割も果たしてくれたりと日常生活では見られない積極的な姿があった。 最終日の旗の完成時の発表では、低学年の子が職員に活動内容を一生懸命説明する姿もあり、４日間の活動で成長を感じることができた。 また、引率職員からの事後報告では、「何よりも、子どもと職員が一緒に参加することで、同じ体験を共有し、帰ってからも体験したことをみんなで笑

	いあえることが良かった。」との感想が寄せられた。また、学校からの配布物で様々なイベントや催しに「行ってみたい」とよく言うようになり、「施設や学校以外でも友達が欲しい。他のキャンプにも一人で行きたい。」ということで当施設の９月の事業にも参加し、元気な姿で活動していた。前回の事業では見ることのできなかった成果が少しずつ現れてきていた
事業の課題	Ⅰ　幼稚園の年長から高校３年生までの幅広い年齢層が今回の事業に参加してくれた。年上の子供が年下の子供の面倒を積極的に見てくれる場面が多くあった一方、活動のペースも大きく異なるため、年齢にあわせて活動内容を変えていくことを検討することが必要である。 　事業終了間際に連携施設職員が「私たち職員はこの子供たちの親代わりであって親にはなれないんです。」と言っていたことが心に残っている。毎日、子供と関わり、子供たちの日常の中にいる連携施設職員と、子供たちにとって非日常の世界にいる我々施設職員で協力しあいながら、子供たちの輝く場面を創り出すことは容易ではない。そのためまずはより一層、綿密な打ち合わせを行う等して、連携施設職員と機構職員とで良好な信頼関係、人間関係を築くことも重要であると感じた。 Ⅱ　連携先の職員の参加が多かったこの事業において、初めて参加していただいた保護者の意見は貴重であった。やはり親子で参加してもらうことによって得るものは大きかったように感じた。しかしながら、３つの自立支援キャンプの事業を振り返ってみても、なかなか参加がないのが実情。難しいところではあるが、母子家庭ひとり親対策事業としては、親子で参加してみたいと思える活動内容も検討し、親子で活動することによって感じてもらえるプログラムを構成する必要がある。今年度の事業の反省を踏まえて、ぜひ多くの親子に参加してもらえるような事業に構成していくことが課題である。 　また、参加者の実態に合わせてより発展的なプログラムを想定し、それに伴う活動内容を準備しておく必要がある。更には、周辺施設との連携を図り、より充実した事業内容にしていくことが今後の課題である。 Ⅲ　前年度に引き続いての利用であったが、中学生の参加がなく団体としての雰囲気も少し変わっていた。前回は中学生が活動をリードしてくれていたが、今回は参加がなく、動きがやや遅く感じられた。事前に参加者がどのような課題を抱えているかはある程度は把握していたが、自分の思い通りにならない時に拗ねてしまい、みんなと一緒のバスに乗れなかった子や好きな相手とバディになれずにいじけてスノーケリングに参加できなかった子もいた。 　結果的にはその場に合わない行動をとってしまったことで、楽しいことに参加できず「しまった」という体験が非常に貴重な学びになったと捉えてくれているが、参加者の実態に合わせてより発展的なプログラムを想定し、それに伴う活動内容を準備しておく必要がある。また、周辺施設との連携を図り、より充実した事業内容にしていくことが今後の課題である。

子どもゆめ基金体験の風リレーションシップ事業

事　業　名	キッズデイ①②③④
趣　　旨	自然体験活動を通して、家族間のふれあいを深める。
対　　象	小学3年生以下の児童・幼児とその保護者の方
実施期間	①平成27年7月11日（土）～12日（日）　1泊2日 平成27年7月18日（土）～19日（日）　1泊2日　※①の追加開催 ②平成27年11月28日（土）～29日（日）　1泊2日 ③平成27年12月19日（土）～20日（日）　1泊2日 ④平成28年1月10日（土）～11日（日）　1泊2日
参加者／定員	①107名／100名　②56名／50名　③91名／100名　④ 96名／100名
事業の様子	**キッズデイ①「海のフシギたんけん隊」** 磯で海の生物を観察する「磯観察」では、ヤドカリをはじめ、様々な種類の生物を捕獲することができ、参加者の海への関心を高めることができた。また、貝殻など海岸で採集した自然物を使ってフォトフレームを作り、海への親しみを醸成することができた。 **キッズデイ②「手打ちうどんをつくろう！」** 粉から麺を作る工程を体験し、箸も竹から手作りしたことで、満足度の高いプログラムとなった。また、麺生地１個当たりのサイズを小さくし、数をたくさん作ることで、子供たちも積極的に参加することができた。 **キッズデイ③「ちょっと早めのクリスマス」** リース作りは施設内での材料集めから取り組み、親子での会話が弾んでいた。自然物を使う創作活動や、参加者が日常生活から離れた場所で自然散策をすることで自然への関心を高めることができた。 また、親子それぞれに創作活動を行い、お互いの作品を認め合うことやキャンドルナイト等の活動を通して親子の絆を深めることができた。 **キッズデイ④「親子でけんちん！おもちつき！」** けんちん汁作りは前日の大根収穫から体験することで、食材や農家に対する感謝の念を醸成することができた。全体的にゆったりした日程だったので、親子の会話が弾む2日間となった。

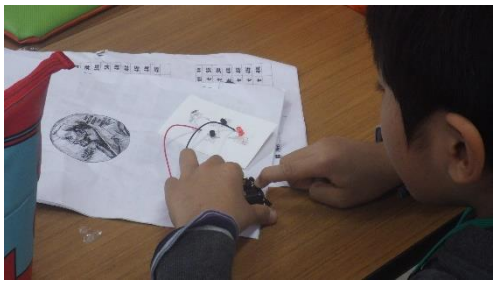
事　業　名	室戸の海まるごと体験　～愛媛編①②～　～香川編～
趣　　旨	日頃穏やかな瀬戸内海で生活をしている児童が、室戸青少年自然の家が提供する海の活動を体験する。それにより、自然に親しむ活動の楽しさを感じるとともに、自然の力の大きさ雄大さを感じることができ、また、参加者相互の交流、新たな仲間との出会いから、協調性を高めることを目的とする。
対　　象	愛媛県四国中央市内、香川県観音寺市内の小学4～6年生
実施期間	愛媛編①　平成 27 年 8 月 8 日（土）～10 日（月）　2 泊 3 日 香川編　　平成 27 年 8 月 11 日（火）～13 日（木）　2 泊 3 日 愛媛編②　平成 27 年 8 月 30 日（日）～31 日（月）　1 泊 2 日
参加者／定員	愛媛編①42 名／40 名　香川編 40 名／40 名　愛媛編②38 名／40 名
事業の様子	**愛媛編①** 愛媛編は初の開催となったが、募集定員がすぐ埋まるほどの人気があり、四国の山間部からやってきた参加者に雄大な太平洋の魅力が十分伝わったように思われる。 **香川編** オーシャンカヤックやスノーケリングといった通常の海の活動以外にも、東洋町まで足を延ばし、海水浴やボディーボードを取り入れたことで、海を満喫できるプログラムとなった。 **愛媛編②** 第１回に多数の申込みがあり、キャンセル待ちとなった方を対象に、急きょ愛媛編の第２回を企画した。そのため、あまり余裕のないスケジュールとなったが、島がなく水平線しか見えない雄大な景色や、瀬戸内海では想像できない高さの波など、瀬戸内海と太平洋の違いは十分体感できた。

事　業　名	むろとでチャレンジ①②③
趣　　旨	①　スポーツクラブに所属しているクラブはひとつのスポーツのみに特化する傾向にある。そこで当事業ではマリンスポーツやコーディネーショントレーニング等、普段とは違うスポーツに挑戦し、さらなる体力向上をねらう。 ②　これまで子どもの孤食や偏食が問題として取り上げられてきたが、近年親世代にもその問題が広がりつつある。室戸の自然の中で育まれた大地･海･太陽の恵みを親子で共に収穫したり味わったりする中で食の大切さを実感させる。 ③　普段触れる機会のない様々な楽器に触れることで音楽への興味・関心を深め、自分たちでオリジナル曲を作ることで、文化的な表現についての意欲を高める。
対　　象	①③小学5年生～中学3年生　　②小学1年生～3年生を含む親子
実 施 期 間	①　平成 27 年 9 月 26 日（土）～27 日（日）　1 泊 2 日 ②　平成 27 年 10 月 10 日（土）～12 日（月）　2 泊 3 日 ③　平成 28 年 1 月 23 日（土）～24 日（日）　1 泊 2 日
参加者／定員	①6 名／40 名　②12 家族 35 名／12 家族　③25 名／30 名
事 業 の 様 子	**①スポーツ編** 参加者が少なく、急きょプログラムを変更して室戸市内の山への登山を実施した。当施設の活動プログラムには「登山」がなく、何度も事業に参加している参加者にとっては新鮮だったようだ。今後は、研修支援事業でも提供できるようなプログラムになるよう、検討していきたい。 **②食育編** 牧場見学や、漁港での水揚げ見学、芋掘りなどの一次産業の現場に触れることで、食材に対する感謝の念や興味・関心を深めることができた。また、牛乳寒天やピザを作る作業の中で親子の会話も弾み、食への理解を深めることができた。 **③音楽編** 前年度開催の「ミュージックキャンプ」とほぼ同じ内容であったが、ギターやドラムに触れたり、自分たちが歌詞を作ったオリジナルソングを演奏するなど、日常ではなかなかできない貴重な音楽体験が提供できた。オリジナルソングの演奏はＣＤに録音して後日配布したので、親子や友人間での話題となり、音楽への興味・関心が周囲に広がることを期待したい。

事　業　名	室戸くろしお祭り
趣　　旨	当施設を全面的に開放し、自然体験活動の機会などを提供することによって、直接体験活動ができる地元に根ざした教育施設としての当施設の広報を図る。
実 施 期 間	平成 27 年 10 月 24 日（土）～25 日（日）　1 泊 2 日
参加者／定員	約 3,500 名　※定員なし
事業の様子	本事業は、施設開放事業として定着しているイベントである。自然の中での様々な体験活動を通して、交流を深めたり、当施設を多くの方々に知ってもらうことを目的として多くの地域の方たちの協力を得て実施している。当日は天候にも恵まれ、室戸青少年交流の家ならではのタッチプールをたくさんの子どもたちが取り囲んでいた。中庭にはたくさんのテントが並び、そこで高知海洋高校によるマグロの解体・販売や地元の方たちによるアトラクションや販売でにぎわった。中でも地元の保育所のマーチングバンド演奏には大きな拍手が起こり、祭りを盛り上げてくれた。

事　業　名	第８回室戸オープン卓球大会（小学生）
趣　　旨	高知県、徳島県の卓球クラブに所属する小学生を一同に集め、競技をすることにより技術の向上を図るとともに、交流を深める。
対　　象	高知県・徳島県内の小学生
実 施 期 間	平成 27 年 12 月 5 日（土）～6 日（日）　1 泊 2 日
参加者／定員	11 チーム 95 名／32 チーム
事業の様子	参加者は前回より少なかったが、普段は対戦できない他県のチームと試合ができる貴重な機会ということもあり、試合は盛り上がりを見せた。高知県内は中・東部からチームが集まっているが、徳島県は南部のチームのみであり、参加チームが固定化してきている。「交流」が事業のテーマでもあるので、新規チームの参加を促すような方策を考えたい。

事　業　名	おもしろ理科工作　作って！遊んで！考えよう！
趣　　旨	子どもたちの理科離れが問題となって久しいが、現実には子どもの理科の成績が世界的に見ても高いにも関わらず、理科を楽しいと感じている子どもが少ないことに問題がある。目に見えない自然の法則を机上の空論ではなく、実体験を通して考える活動を通して子どもたちに理科の楽しさを実感させることで、子どもが理科を好きになるきっかけ作りとしたい。
対　　象	小学4年生～6年生
実 施 期 間	平成 27 年 12 月 12 日（土）～13 日（日）　1 泊 2 日
参加者／定員	32 名／40 名
事業の様子	理科工作を中心とした事業は初めての試みだったが、手作りする過程で見える様々な化学反応に、参加者は目を輝かせながら喜んでいた。作ったものは浮沈子、電子ホタル、偏光装置、芳香剤などで、完成した作品をお互い見せ合うなどして楽しむ姿が見られた。夜に予定していたふたご座流星群観測は残念ながらできなかったが、理科の魅力は伝えられたのではないかと思われる。



事　業　名	南四国小学生バドミントン交流大会
趣　　旨	交流する機会の少ない高知・徳島両県のバドミントンに取り組んでいる小学生が集まり，交流試合を通じてチーム力の向上を図ると共に，チームを越えた友情の輪を広げる。
対　　象	高知県・徳島県内の小学生
実 施 期 間	平成 28 年 1 月 30 日（土）～31 日（日）　1 泊 2 日
参加者／定員	44 名／定員なし
事業の様子	バドミントンの大会を開催するのは初めてであったが、参加チームの協力を得て、スムーズに試合を運営できた。夜のレクリエーションでは県のトップクラスの選手に指導していただき、楽しく交流しながらも体力づくりに繋がるような時間となった。また、同選手には試合の合間にも参加児童の練習相手になっていただき、参加児童にとって貴重な経験となった。

事　業　名	ファミリーデイ！40 周年記念感謝祭！
趣　　旨	創立４０周年を迎え、いつも利用していただいているリピーターの家族を中心に感謝の気持ちを込めて、記念感謝祭を実施する。施設開放を含め、体験ブースや豆まき、運動会などの活動を親子で楽しむことにより利用促進につなげることを目的とする。
対　　象	親子
実 施 期 間	平成 28 年 2 月 6 日（土）～7 日（日）　1 泊 2 日
参加者／定員	29 家族 80 名／50 家族 100 名程度
事業の様子	10 月の「室戸くろしお祭り」に続く施設開放型事業で、当施設リピーターの親子を対象に開催した。時節柄取り入れた「すごい豆まき」では、大量の豆に子どもたちも興奮し、元気に広場を走り回っていた。また、「子ども体験遊びリンピック」をアレンジした「親子 de チャレンジ」では、親子で仲良く競技に挑む姿が見られた。時間配分は余裕を持たせたが、プログラムの選択肢をたくさん持たせたことで、何度も当施設の事業に参加した親子にとっても楽しめる内容となった。

事　業　名	第 8 回「むろと 2000 本桜祭り」
趣　　旨	室戸市民有志が植樹した２０００本の桜の花を観賞するとともに，「日本一早い桜祭り」として室戸の春を盛り上げる。
対　　象	親子
実 施 期 間	平成 28 年 2 月 28 日（日）　日帰り（20 日～23 日に夜桜会も開催）
参加者／定員	1,685 名／1,000 名
事業の様子	今年は暖冬で開花が早く、急遽夜桜見物の予定を繰り上げ、ぼんぼりの明かりに照らされた早咲きの河津桜を見ることとなった。当日は天気にも恵まれ、地元室戸市のフラダンスチームやバンド演奏等、華やかに開会し、たくさんの来場者に早咲きの桜と各種イベントを楽しんでいただけた。28 日当日まで桜が散らずにもつかどうか心配したが、満開の桜の下、各ブースが沢山の人で賑わった。野点での御茶屋の接待での会話、苔玉作りや木のペンダント作りに参加した人たちの笑顔等、楽しそうな様子がうかがえた。ご来場されていた方々は、親子連れや年配の方など年齢層も広く、楽しめるイベントになった。

地　域　応　援　事　業

事　業　名	第55回高知県武道室戸大会
趣　　旨	高知県内より武道の精鋭が集い、技を競い、親睦を深めることにより、強靭な精神を培う。また、武道の発展にも寄与する。
主　　催	室戸市体育会、室戸市教育委員会
共　　催	高知県柔道協会
対　　象	小学3年生以下、小学4年生以上、中学生、一般（大学生）、の４部門
実 施 期 間	平成27年6月21日（日）　日帰り
参加者／定員	約400名／定員なし

事　業　名	中・四国６年生軟式野球室戸大会
趣　　旨	普段交流できない中・四国地域の小学６年生の軟式野球チームが一堂に会し，交流試合を通じて技術力の向上を図り，友情の輪を広げる。
主　　催	カメイクラブ
共　　催	高知東部クラブ
対　　象	中国・四国地域の少年野球チーム
実 施 期 間	平成27年11月7日（土）　※8日(日)は雨天により中止
参加者／定員	約300名／定員なし
事業の様子	11回目を迎えた少年軟式野球クラブの野球大会で、今年度は高知、愛媛、徳島の13チームが熱戦を繰り広げた。2日目の8日は雨天のため中止されたが、選手は元気にプレーしていた。

事　業　名	第21回　四国交流三四郎のつどい
趣　　旨	四国四県の子どもたちが一堂に会し、ともに競い合う中で親睦を深め、四国の柔道競技のさらなる進展を図ることを目的に開催する。
主　　催	四国交流三四郎のつどい実行委員会
共　　催	高知県柔道協会
後　　援	四国柔道連盟
対　　象	小学3年生以下、小学4年生以上、中学生、一般（大学生）、の４部門
実 施 期 間	平成27年11月14日（土）～15日（日）　1泊2日または日帰り
参加者／定員	22団体　36チーム　約150名／定員なし
事業の様子	本大会は、今年21回を迎えた。四国4県からの参加があり、参加する団体は他県のチームと対戦しながら、交流を深めることができることを、毎年楽しみにしている。 本年度は、香川県の香川選抜が優勝をおさめた。準優勝は徳島県の鳴門市柔道少年団Ａチーム、第3位は高知県の和田道場Ａチームという結果だった。運営については、例年どおり高知県柔道協会、室戸市少年防犯柔道クラブ保護者の方々等、関係各位の協力により、円滑に進行した。

管理運営報告

１．職員の研修・講習等

○　「新任職員研修」　平成 27 年 4 月 7 日～8 日
（新採用職員、人事交流職員及びその他の職員対象　８名参加）
・所の概況、実施事業及び利用者受入業務の内容説明、実践を重視した基礎的研修

○　「指導系職員研修Ⅰ」　平成 27 年 4 月 11 日
・磯観察活動の技能と指導方法の習得、避難経路の確認（海の活動指導職員対象　２名参加）

○　「指導系職員研修Ⅱ」　平成 27 年 4 月 13 日
・研修指導員を招いての海の活動実習（海の活動指導職員対象　２名参加）

○　「救急救命・ＡＥＤ講習会」　平成 27 年 4 月 15 日実施（全職員対象　８名参加）
・消防署職員による講義と実習

○　「指導系職員研修Ⅲ」　平成 27 年 4 月 15 日
・スノーケリングの技能と指導方法の習得（海の活動指導職員対象　２名参加）

○　「指導系職員研修Ⅳ」　平成 27 年 4 月 17 日
・スノーケリングの技能と指導方法の習得（海の活動指導職員対象　２名参加）

○　「指導系職員研修Ⅴ」　平成 27 年 4 月 25 日
・オーシャンカヤックの技能と指導方法の習得（海の活動指導職員対象　２名参加）

○　「職員研修」　平成 27 年 9 月～平成 28 年 2 月
・　接遇研修　「笑顔と言葉がけ」　（全職員対象　19 名参加）
・「受付業務の方法及び利用を増やすために」　（全職員対象　15 名参加）
・「当施設の歴史、青少年教育施設の在り方を考える」　（全職員対象　13 名参加）

２．平成２７年度国立室戸青少年自然の家施設業務運営委員会

日　　時　　平成 28 年 2 月 4 日（木）14 時～16 時

場　　所　　高知県立ふくし交流プラザ　５階 研修室Ｄ

出 席 者　　池、小松（久保代理）、清水、杉村、永松（森代理）、中山、西尾、
（敬称略）　　野島、増田（小柳代理）、松岡、渡邉（泉代理）　の各委員　計 11 名
（欠席者：上城戸、大野、酒井、脇口の各委員）

日　　程　　１．開会
２．所長挨拶
３．委員紹介
４．職員紹介
５．議長選出
６．議事
７．質疑応答
８．所長お礼のことば
９．閉会

３．栄典関係

当施設研修指導員の谷脇正通氏が、当施設活動プログラムや教育事業への貢献、広範な施設での環境整備への尽力など、青少年教育の振興に貢献された功績により、平成 27 年 11 月 2 日に文部科学大臣から社会教育功労者表彰を受賞された。

●桑野敬氏　　略歴
平成 13 年　独立行政法人国立少年自然の家国立室戸少年自然の家ボランティア指導員
平成 18 年　独立行政法人国立青少年教育振興機構国立室戸青少年自然の家指導員
平成 22 年　独立行政法人国立青少年教育振興機構国立室戸青少年自然の家研修指導員

●当施設における主な活動
海洋体験活動船「くろしお」の操船及び指導、施設開放事業「室戸くろしお祭り」等の事業における指導、環境整備

４．施設整備（主なもの）

○浴場用ボイラー装置の修繕

ボイラー装置の中の、熱交換をして温度調整を行っている部分であるプレート式熱交換器の取替えを行った。経年劣化による蒸気の漏れを防ぐことができるようになり、安全なボイラー作業環境を整備することができた。

○重油地下タンクの修繕

経年劣化による重油タンクの腐食を取り除き、今後も安全に維持管理をしていくため、タンク内面を修繕し、繊維強化プラスチック（ＦＲＰ）による内面加工を実施した。

○ロッジ方面案内板の更新

利用者にとって分かりやすい案内板になるように、分かれ道に設置の案内板について、ロッジの名称を大きく表示する等の更新を実施した。

○室戸岬新港の看板の更新

前年の台風で破損し、撤去していた室戸岬新港に設置の案内看板の更新を行った。

５．設備備品（主なもの）

○車両の更新

職員の所外における用務等に使用の８人乗り乗用車（トヨタ・エスティマ）は、平成１２年に導入した車両であり老朽化が進んでいたため、入札により同等車両（ニッサン・セレナ）への更新を行った。

広 報 活 動

平成 27 年度も広報活動として様々なイベントにブースを出展し、活動体験と併せて施設のＰＲを行った。

実施日	イベント名	会　　場	ブースへの来場者数
4 月 29 日	室戸世界ジオパークセンターオープニングセレモニー	室戸世界ジオパークセンター	150
7 月 19 日	ふるさと室戸まつり	海の駅「とろむ」	500
9 月 20～22 日	室戸とんがり市	室戸岬	600
10 月 17 日	大洲フェスティバル	国立大洲青少年交流の家	800
10 月 18 日	チアフルデー	国立吉備青少年自然の家	400
10 月 31 日, 11 月 1 日	むろとまるごと産業まつり 室戸岬灯台まつり	海の駅「とろむ」 室戸岬灯台	1,200
11 月 3 日	農学部一日公開	高知大学物部キャンパス	1,600
11 月 7 日	淡路うずしおフェスティバル	国立淡路青少年交流の家	150
12 月 20 日	海辺の小さな音楽会	室戸世界ジオパークセンター	120
1 月 31 日	春の観光開き	室戸岬	60
2 月 28 日	むろと２０００本桜祭り	室戸広域公園	1,700
3 月 12,13 日	東部まるぱくっ！	こうち旅広場（ＪＲ高知駅前）	1,650

根強い人気の「木のペンダント作り」。たくさんの名作（？）が生まれている。

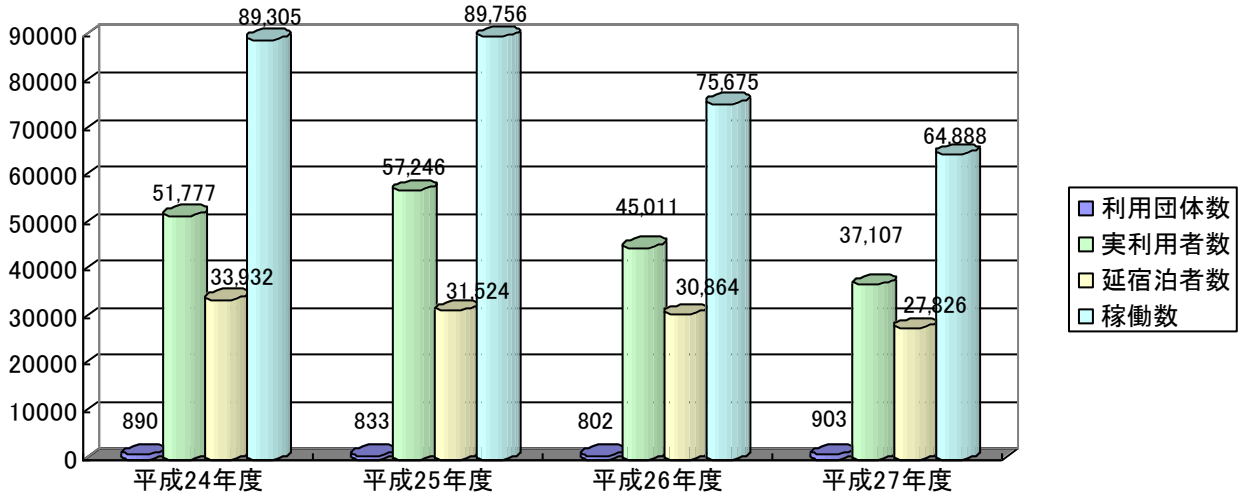
左より大洲青少年交流の家、吉備青少年自然の家、淡路青少年交流の家に出展したブース。磯の生き物の人気は高い。

平成 27 年度も、可能な限り様々なイベントにブースを出展した。会場が複数個所に分散されたり、天候に恵まれなかったりと、来場者はやや減少傾向にあるが、体験活動の普及には少なからず寄与できているように思われる。これからも積極的にブース出展して、施設利用と体験活動のＰＲを実施していきたい。

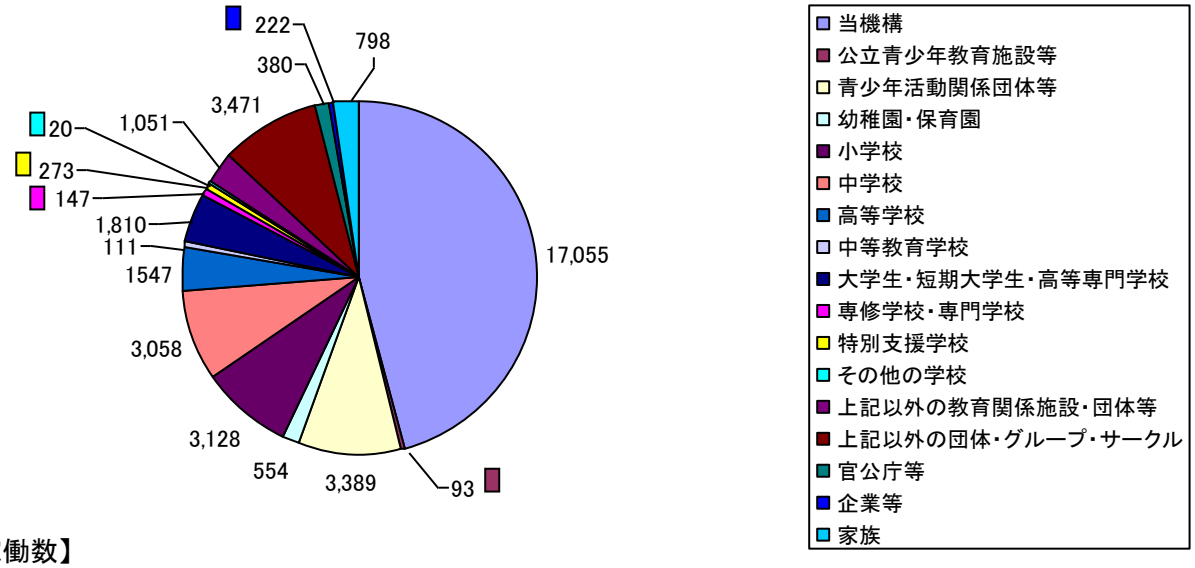
また、Facebook やブログによる情報発信についても、更新頻度を上げるなどして一層力を入れ、施設の知名度を上げていきたい。

利　用　実　績

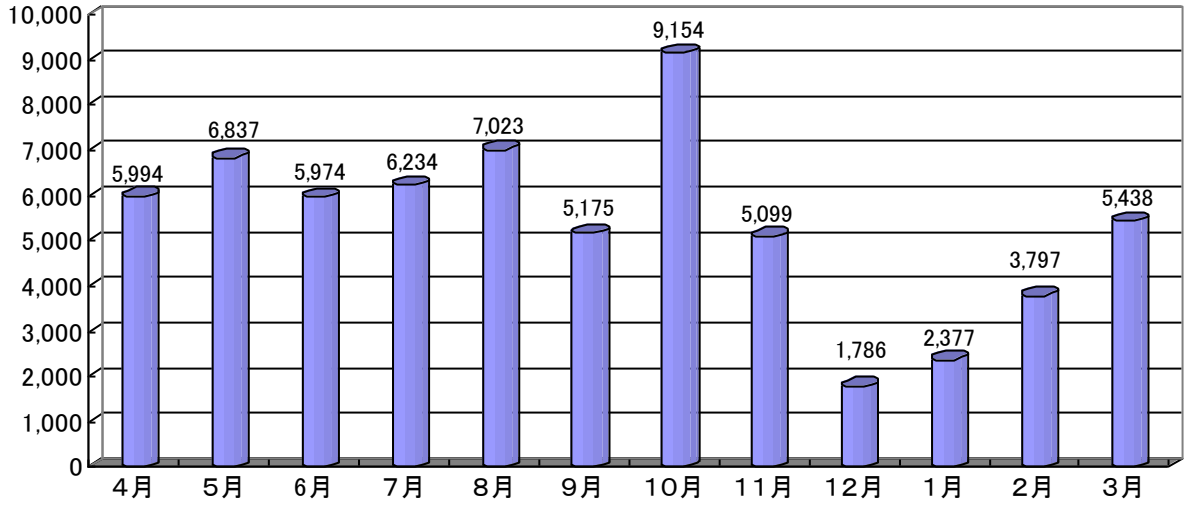
【年度別利用状況】



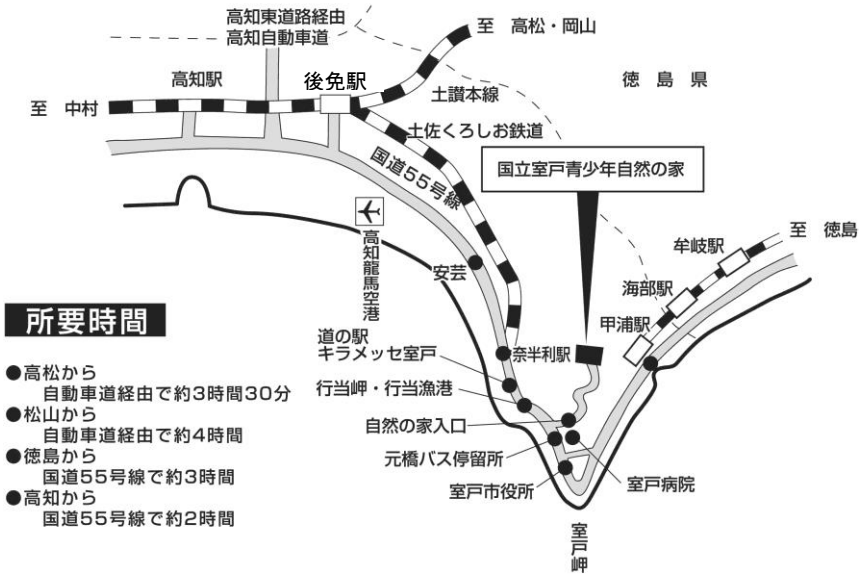
【団体種別稼働数】



【月別稼働数】



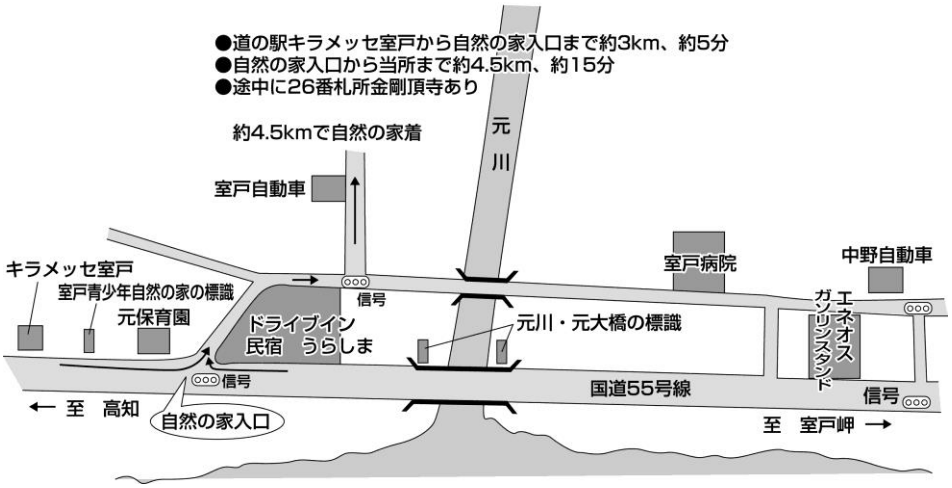
交　通　案　内



所要時間

- ●高松から
  自動車道経由で約3時間30分
- ●松山から
  自動車道経由で約4時間
- ●徳島から
  国道55号線で約3時間
- ●高知から
  国道55号線で約2時間

自然の家への入り口付近詳細図



独立行政法人国立青少年教育振興機構

国立室戸青少年自然の家

ＴＥＬ．０８８７－２３－２３１３（代）

ＦＡＸ．０８８７－２３－２４８４

〒７８１－７１０７　　高知県室戸市元乙１７２１

Ｅ－ＭＡＩＬ　muroto@niye.go.jp

ＨＰ　http://muroto.niye.go.jp/